

令和6年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業報告

令和6年度は報酬改定が行われ、法人の各事業で影響はありました、これまで積極的に研修への参加をしてきたことや利用者の加齢に伴い必要に応じて行ってきた支援、工賃向上等を報酬へと繋げることができ法人運営上は大きな問題もなく、一年を終えることができました。

感染症の影響は、新型コロナウィルスの5類移行後も続いており、地域の流行期などに感染者が発生し、集団感染へと広がることもあり対策を続けながらの一年でした。利用者との別れも経験し、疾患のある利用者や高齢利用者も増えてきていることを再認識し、一定程度の対策は今後も必要だと改めて感じました。

令和6年度は、法人が所属する空知知的しうがい福祉協会の事業であるソフトボール交流大会を当番事業所として開催しました。学校や関係機関と連携し、無事に交流大会を終えることが出来ました。今後、職員の経験として活かされると思います。

設備面では、暖房配管の改修工事、公用車の増車等、計画的に進めることができました。また、業務省力化としてICT導入モデル事業の補助を活用し、職員の情報共有のためのインカムを導入することができました。

人材面では、年度途中に病気による職員の離脱などもあり、厳しい状況は続いていますが、6年度、7年度、2年連続で新卒者の採用があり、厳しい中でも今後に繋がる人材の確保ができます。

① 障がい者支援施設ないえ

施設入所事業では、これまでにショートステイを利用していた男性1名を5月に迎えました。8月には施設での生活が難しくなった男性1名が退所し、3月には長期入院中だった女性1名も退所となりました。高齢化に伴い医療的なケアや専門的な介護技術が必要になってきています。

令和6年度は、食堂内の改修工事を行い、手洗い場は使いやすくなりました。椅子とテーブルも新調して明るい環境で食事を楽しんでいます。また、女子棟の暖房設備の配管工事も無事終えています。

業務省力化に向けたICT導入支援事業補助金を活用し1月にインカムを導入しました。利用者の早急な対応時など速やかに情報共有ができ、電話の取次ぎや離れていてもスムーズに連携した支援ができるようになりました。

公用車の更新が必要となり、利便性を考え乗り降りしやすい車種を選び10月に購入しました。

生活介護事業では、5年振りに宿泊（希望により日帰り）旅行を企画し、深川のコテージで楽しく過ごしました。5回に分けて少人数で行ったことでドライブや買物、カラオケなど

希望に合わせて活動することができました。

11月の後半に新型コロナウィルスが流行し、女性棟で11名、男性棟で12名の方が感染しました。3月にも女性5名が感染しましたが、終息を待ってジンギスカンを食べに行くお楽しみ会を行いました。

12月に長く通所されていた利用者と突然のお別れがありました。家族を失ったような寂しい気持ちでいっぱいです。

短期入所事業では、在宅5名の利用がありました。希望に応じた受け入れができました。

② 就労支援センターすまっしゅ

令和6年度はイベントやバザーも増え、活気ある一年となりました。年間行事の日帰り旅行は、就労移行の利用者が2名と少ないこともあり合同で計画し、旭川のバイキングレストランで昼食、その後は大型複合施設で買い物を楽しみました。3月のお疲れ様会では大型バスを借りずに法人のマイクロバスを使用し、2回に分けてバイキングランチに出かけ一年の労をねぎらいました。

年度途中で2名が退所、1名が病気のため逝去されました。長年共に作業をしてきましたので、しばらくは心にぽっかり穴の開いたような寂しい気持ちでしたが、今では想い出話に花が咲いています。

就労継続支援B型椎茸作業では、高齢化に配慮し菌床数を減らして作業してきましたが、作業に余力が生じたため令和7年度は再度見直しを行う予定です。多機能型としてみみずくを一体的に運営したことで、作業の選択肢が増えたことに加え、平均工賃月額が3万円を超えました。また、老朽化した培養室の建て替えを計画しており、再来年度の施工に向けて業者との打ち合わせを始めたところです。洗濯、リサイクル作業は大きな変化なく順調です。

就労移行では、利用者3名でのスタートでしたが、3月に1名が就職、1名が退所となりました。4月から新たに1名の利用が決まっていますが、引き続き利用者を募集しています。就労定着では今まで退職者はいませんでしたが、今年度1名が退職となりました。退職後は関係機関へ引継ぎました。

③ 共同生活援助みどり荘

共同生活援助事業では秋に闘病の末、女性入居者が逝去され、年度末に長期入院している女性入居者も退院が難しいとの話を受け退所されています。病気との闘いに敗れ、悲しく、悔しい気持ちいっぱいの日々でした。今できることを、心に寄り添ってやってみようを心掛け、職員一丸となりサポートしてきましたが、こうすれば良かったと思い返すことも多く、一日一日を大事にしなくてはと気持ちを改める一年でした。

新規利用者の動きとしては、9月に2名の体験利用があり、それを経て3月に高等養護学校を卒業した女性1名が入居されています。学校からは、卒業後に入居したいと相談を受けますが、長く空室を確保することが難しくタイミング次第と返答するしかない状況で、身

につまされる思いです。

一人暮らしに向けた支援については希望者がなく、また加算取得にはハードルが高いもので、6年度において実績はありませんが、今後も希望を聞きながら対応してまいります。

ハード面ではフピの暖房設備について、「脱炭素化事業（補助金）」を利用した改修工事に向けて調査を始めています。また、車輌については、助成事業申請に外れ更新していません。

諸物価の高騰により、全てのホームにおいて生活費を追加で負担していただかなくてはならず、サービス利用料金の見直しが必要になりました。日々節約を心掛けて過ごしておりますが、行動パターンもありなかなか難しく感じました。

④ サポートセンターぼすと

居宅介護事業では、今年度も安定したサービス提供を継続しました。今でも、感染症の流行には影響を受けていますが、工夫や対策をしながら、柔軟な対応に努めました。

利用者の動きとしては、定期利用者のご逝去や転居による悲しい別れがありました。その他は大きな変化なく、コロナ禍前の活動が戻ってきて、外出の支援では行動範囲が広がっています。生活面のサポートでは、高齢化が進み、住宅環境の整備や食形態の調整、入浴の介助、服薬支援などサポートする内容は年々変化し、関係機関と連携を図りながら介護サービスを併用するケースもありました。必要な支援を受けて生活の質を維持できるよう、チーム内で情報を共有し思案して、一人一人の気に入った暮らしをサポートしています。